

#オオイタレキシ旅

大分市内にあるとっておきの文化財の魅力をお届けします!

— 第7弾 —
亀塚古墳

第7弾 古代のロマンを感じる 県下最大級の前方後円墳!

坂ノ市地区に位置する「亀塚古墳」は、5世紀初め頃に築造された県下最大級(全長116m)の前方後円墳です。

付近は広く史跡公園として整備され、古墳頂上からは別府湾までを見渡すことができます。亀塚古墳の魅力は、実際に登ってその大きさを体感できることです。

見学路は前方部から後円部まで続き、3段に築かれた墳丘や葺石、円筒埴輪などを見ながら登った頂上には絶景が広がります。長さ3.2メートルにもおよぶ巨大な石棺が設置されています。

古墳からの出土品は敷地内にある「海部古墳資料館」で見学することができます。

☎ 文化財課 ☎578-7546

kamezuka kofun



国指定史跡亀塚古墳
前方後円墳の大きさにびっくり!!



埴輪の形もさまざま



古墳から見える素敵な景色

Access

亀塚古墳公園・海部古墳資料館
所在地：大字里646-1
移動時間：大分宮河内ICから車で約15分
JR日豊本線坂ノ市駅から徒歩40分
駐車場：25台 無料

休館日など、詳しくはこちら▶



お知らせ

■海部のまつり2023

古墳時代を再現するイベントが亀塚古墳公園で開催されます。勾玉作りや火おこし体験(いずれも有料)などが楽しめるコーナーもあります。

📅 11月3日(金) 午前10時～午後4時(午前9時30分から受付)

📍会場へは公共交通機関・シャトルバスをご利用ください。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

☎ 海部のまつり振興会事務局 後藤 ☎090-8392-7338

■海部古墳資料館の一時休館

11月6日(月)～6年1月31日(水)の間、施設改修のため一時休館します。改修中も、亀塚古墳公園は通常通り利用できます。

☎ 海部古墳資料館 ☎524-2300

Q 市報クイズ

○に入る言葉は何か?

「戸次川の合戦」で友友・四国連合軍が戦った相手は?

○○軍

ヒントは、この市報の中にあります。

正解者の中から抽選で、関わりを使った加工品セットを3人にプレゼント!

※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

応募方法

📱 スマホ 右の二次元コードから応募してください。

📄 はがき はがきに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、市報の感想を記入し、11月15日(水)〈消印有効〉までに広聴広報課(〒870-8504 荷揚町2-31 ☎537-5713)へ。



10月1日号「市報クイズ」の答え

毎日記録し振り返ることで、食品ロスを減らすことができる取り組みは? 「食(品)ロ(ス)ダイアリー」

編集担当より

11月19日(日)に開催される大分国際車いすマラソンは、世界初の車いすだけの国際大会として

昭和56年から開催され、40年以上の歴史があります。表紙の写真は、ふだん別大国道で練習されている佐佐野利明さん(昨年度のハーフT34/53/54クラス男子で4位の選手)です。

本大会には、熱戦を繰り広げるアスリート、サポートするボランティア、そして皆さんの応援、そのいずれもが欠かせません。ぜひ声援を送りに、お越しください。

市公式SNSでは、旬な情報を発信中!



市公式SNSはこちら▶



市民図書館からのお知らせ

①マイブック(本の手作りイベント) 無料

日時：11月18日(土) 午前10時～正午
場所：市民図書館2階 会議室
定員：20人(先着順)
対象：中学生以上(保護者同伴で小学5、6年生も可)

②おはなしを届けるための講座 無料

●紙芝居編
・紙芝居の魅力と演じ方 11月19日(日)
・大人がともに楽しむ紙芝居 11月26日(日)
定員：20人(先着順)
●科学読み物編
・水をテーマに 12月17日(日)
・種がとぶ 12月24日(日)
定員：30人(先着順)
時間：午前10時30分～正午
場所：市民図書館2階 会議室

③クリスマスブック作り 無料

設置期間：11月24日(金)～12月24日(日)
※11月27日(月)、12月11日(月)は休館日

①②の申込み

直接または電話で、11月1日(水)から市民図書館へ。

市民図書館所蔵 おすすめの新刊

市民図書館 ホームページ▶



まっしろドードー

ゆみカテリーナ：ぶん・え 文芸社

夜になってもなかなか眠くならないまっしろドードーは、ベッドを抜け出し、いたずらを始めます。するとドードーはどんどん増えていって…。ちょっとふしぎなドードーの何とも言えないかわいらしさが、ほのぼのとした気持ちにさせてくれます。

名場面でわかる刺さる小説の技術

三宅 香帆：著 中央公論新社

本を読んでいて「この場面のここが面白い!」と思うことはあるでしょう。なぜそこが面白いのかを著者なりに解説し、これから小説を書く人へのアドバイスとしています。小説を読む人にとっても名場面の楽しみ方として参考になりそうです。



詳しくは、市ホームページをご覧ください。市民図書館 ☎576-8241 へ。

人権・同和教育シリーズ

539

人の生き方を考える

〇〇だから...



わたしがリーダーを務める部署に、外国人のジンさん(仮名)が配属されることを伝えられました。

その日の夜。

夫に「うまくやっていけるか不安なんだよね」と伝えると、夫からは「その気持ちは分かるよ。でも、会う前からそんなに気にしない方がいいと思うけど」と返されたのでした。ジンさんが初出勤すると、わたしは思っていた不安が現実のものとなりました。会話については、ジェスチャーを交えれば、お互いの伝えたいことは理解できますが、時間がかかります。また、習慣の違いは思っていた以上に大きいものでした。わたしが仕事の決まりや流れを一つ一つ説明すると、そのたびに「なぜですか?」「違うんじゃないですか?」と返され、イライラしました。わたしは一人昼食を食べながら「本当にうまくやっていますのだから...」と思いつつ、息が止まりました。

それから数日後、新商品の開発会議のことです。これといったアイ

デアが出ず、重たい空気が漂う中、ジンさんが「ちょっといいですか?」と発言したのです。「また始まった...」と思い制止しようとしたところ、ジンさんはわたしが思いも付かなかった考えを次々と提案しました。いつの間にか、みんながジンさんを囲み、次々に質問する光景を見ながら「外国人だから...」と思っていた自分を反省したのでした。

仕事で落ち着いた週末。夫婦で近所を散歩していると、外国人や高齢者、車いすユーザー、子どもなどさまざまな人が公園のベンチで休憩しながら「いろんな人が身近にいるの、見ているようで、見ていなくて...。『自分とは違う』っていう意識が、避ける気持ちになっていたりかも...。これからは関わりを大切にしようと思う。分かり合うためには、お互いを知ることが大事よね」と話すわたしを、夫は笑顔で見ていたのでした。

「差別はいけない」「差別はしていない」と思いながらも、思い込みや決めつけによって、相手を見ていることがあります。ちょっと立ち止まって、まずは自分自身を見つめ直してみませんか?